様式第３号

事務事業評価表（平成２６年度）

事業コード	232	課コード	0404	会計種別	一般会計	予算の種類	■政策	■経常	□なし

１．事業の概要(PLAN)

(1)事業概要	①事業名	基本事業	手賀沼沿い農業者への支援			実施計画への位置づけ	●有　○無	②部課名	環境経済部・農政課	
		個別事業	手賀沼沿い農地の保全活用と農業者支援							
	③事業主体	○市　●その他（ 農地活用計画者 ）				④対象地区	■我孫子　■天王台　□湖北　□新木　□布佐　□全市			
	⑤事業期間	平成２５年度　～				⑥担当職員数	５ 人　（換算人数　1.2 人）			
	⑦事業費 （人件費含む）	総事業費	0 千円			当該(開始)年度	（当　初）	51,052 千円　（うち人件費　11,160 千円）		
							（変更後）	千円　（うち人件費　千円）		
	⑧施策の位置づけ	施策コード	22102	重点プロジェクトへの位置づけ	重点２	基本計画地区別計画への位置づけ	●有　○無	部門別計画への位置づけ	（計画名）	手賀沼沿い農業活性化指針

(2)目的	施策目的・展開方向	生産者が意欲を持って農業経営に取り組めるよう、新品種・新品目・高品質栽培の導入などによる農産物のブランド化や加工品の開発、ネット販売や詰合せ販売など消費者ニーズに応えた販売方法の導入、商工業者とも連携した事業の展開など、農業の付加価値を高めるためのさまざまな取り組みを支援します。また、我	事業目的	「あびこ型都市農業」の確立に向けたしくみづくりを先導的に推進し、我孫子らしさである自然環境に調和した農業を推進するため、手賀沼沿い農地活用計画に沿った農地活用を図る事業者に対し、事業及び経費支援行うもの。
(3)事業内容	内　容	手賀沼沿い農地活用計画等に位置付けられた農地活用の事業として農業者を支援する。果樹栽培、観光農園、不耕起米栽培、契約栽培、景観作物栽培、体験農園等を通して農業者と消費者が交流できる場、そして賑わい形成の創出を図るとともに、農業者には新たな都市農業としての経営手法を確立するもの。農振計画変更協議にかかる自治紛争処理審査の結果を受け、手賀沼農舞台は見直すことになり、新たに手賀沼沿い農地活用計画を策定する中で、手賀沼沿い農業者への支援をどのように展開していくか、地権者と協議を進める。 なお、現在行われている支援事業については、地権者の意向に添いながら支援を継続していく。	当該年度執行計画	手賀沼沿い農地活用計画をもとに以下の事業に対して支援を実施する。 １農地の積極的活用への支援　・景観作物栽培事業　・観光農園事業　・果樹栽培事業 ２農地の保全・維持管理（農業経営の継続）への支援　・農用地等賃借事業　・農業経営基盤設備整備事業　・農地保全事業　・用水・排水の維持管理事業 ３手賀沼沿い農地用排水対策事業

当該年度活動結果指標	手賀沼沿い農地活用計画に沿った農地活用率	単位 ㎡	想定値	37,000
			実績値	

(4)達成目標(期待する成果)	達成目標(期待する成果)	指標種類	指　標	単位	(5)現況値	(6)目標値
当該(開始)年度	手賀沼沿い農地活用計画に基づいた農地活用を支援する	直接	手賀沼沿い農地活用計画に沿った農地活用率	㎡	37,000	38,000
３年後	手賀沼沿い農地活用計画に基づいた農地活用を支援する	直接	手賀沼沿い農地活用計画に沿った農地活用率	㎡	38,000	40,000
最終(概ね５年後)	手賀沼沿い農地活用計画に基づいた農地活用を支援する	直接	手賀沼沿い農地活用計画に沿った農地活用率	㎡	40,000	45,000

(7)事業実施上の課題と対応	手賀沼沿い地区にかかわる農家との調整が必要である。また、手賀沼沿い農地活用計画への農業者の理解が重要である。	代替案検討	○有　●無

		平成２５年度			平成２６年度				平成２７年度			平成２８年度		
		政策	内　容	金額(千円)	政策	内　容	金額(千円)	実績値(千円)	政策	内　容	金額(千円)	政策	内　容	金額(千円)
(8)施行事項	実施内容 費　用		農舞台実行計画支援事業（継続分）		*	手賀沼沿い農地活用計画支援事業				手賀沼沿い農地活用計画支援事業			手賀沼沿い農地活用計画支援事業	
			景観作物	3,200	*	農地の積極的活用への支援				農地の積極的活用への支援			農地の積極的活用への支援	
			観光農園	750	*	景観作物	2,470			景観作物	2,470		景観作物	2,470
			果樹栽培	660	*	観光農園	649			観光農園	649		観光農園	649
			体験農園	150	*	果樹栽培	413			果樹栽培	413		果樹栽培	413
			農業用機械バロネス修繕料	137	*	農地の保全・維持管理への支援				農地の保全・維持管理への支援			農地の保全・維持管理への支援	
			農作業用損害保険料	4	*	農用地等賃借事業	20			農用地等賃借事業	20		農用地等賃借事業	20
			消耗品	150	*	農業経営基盤設備整備事業	3,116			農業経営基盤設備整備事業	3,116		農業経営基盤設備整備事業	3,116
		*	手賀沼沿い農業用排水対策調査	2,310	*	農地保全事業	5,132			農地保全事業	5,132		農地保全事業	5,132
		*	手賀沼農舞台展開支援要綱見直し		*	用水・排水の維持管理事業	996			用水・排水の維持管理事業	996		用水・排水の維持管理事業	996
						農業用機械バロネス修繕料	226			農業用機械バロネス修繕料	137		農業用機械バロネス修繕料	137
						農作業用損害保険料	4			農作業用損害保険料	4		農作業用損害保険料	4
						ゲートスポット維持管理業務委託	140			ゲートスポット維持管理業務委託	140		ゲートスポット維持管理業務委託	140
						ゲートスポット借地料	1,370			ゲートスポット借地料	1,370		ゲートスポット借地料	1,370
					*	手賀沼沿い農業用排水施設等			*	手賀沼沿い農業用排水施設等		*	手賀沼沿い農業用排水施設等	
					*	調査設計・監理業務（繰り越し分）	9,092		*	調査設計・監理業務	10,581	*	調査設計・監理業務	4,027
					*	手賀沼沿い農業用排水施設等			*	手賀沼沿い農業用排水施設等		*	手賀沼沿い農業用排水施設等	
					*	整備工事（繰り越し分）	16,264		*	整備工事	95,110	*	整備工事	57,528
	予算(済)額	合　計		7,361	合　計		39,892		合　計		120,138	合　計		76,002
(9)財源内訳	国庫支出金	補助率	0 %	0	補助率	50 %	9,500		補助率	50 %	48,900	補助率	50 %	28,400
	県支出金	補助率	0 %	0	補助率	0 %	0		補助率	0 %	0	補助率	0 %	0
	起債	充当率	0 %	0	充当率	50 %	9,500		充当率	75 %	36,600	充当率	75 %	21,300
	一般財源			7,361			20,892				34,638			26,302
	その他の財源	□特会 □受益 □債務 □基金 □その他		0	□特会 □受益 □債務 □基金 □その他		0		□特会 □受益 □債務 □基金 □その他		0	□特会 □受益 □債務 □基金 □その他		0
(10)人件費等	換算人数(人)			1.13			1.2				1.2			1.2
	正職員人件費			10,509			11,160				11,160			11,160
	嘱託職員報酬額			0			0				0			0
	臨時職員賃金額			0			0				0			0
事業費(予算(済)額＋正職員人件費)				17,870			51,052				131,298			87,162
(11)単位費用 (事業費／活動結果指標)		0.48千円／㎡			1.38千円／㎡									

２．事業の評価(DO+CHECK)

評価項目		事　前　評　価		事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む））		改善検討
必要性	(1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性)	手賀沼沿い農地活用計画は、農業者が主体的に農地活用に取組み、そこに都市住民が参画することにより農を共有し、都市と農業が共生するなかで、新たな農業形態を構築するもの。そのためには先ず、農業者が農地活用に取り組める環境を整えることが大切であり、この農地活用へのきっかけや動機づくりとして事業支援と事業費支援は不可欠なものである。特に農地活用に当たっての事業費支援は、経営面での安心感がもたらす新たな取組みへの動機や意欲が見込めることから、手賀沼沿いのち活用計画を推進するうえで効果的な施策である。		○①事前確認での想定どおり ○②事前確認での想定どおりでなかった ＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞		○要 ○不要
	(2)市が実施する必要性はあるか？ (市実施の必要性)	○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない （理由）□法令等で市が実施することが定められている □提供主体が市しかない □その他	＜その他の内容＞	□①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった □②市が主導で進めなければ実効性がなかった □③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された □④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した □⑤サービス水準が確保された □⑥サービスの安定供給基盤が確保された □⑦その他 ＜その他の内容＞	＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞	○要 ○不要
		●②自治体である市が推進すべきである （理由）■市が主導で進めることにより実効性が得られる ■市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される ■市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる □その他	＜その他の内容＞			

		参加・協働の内容	工夫の具体的な内容	実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）	参加・協働の程度・内容	
参加・協働の工夫	市民の参加や市民との協働を工夫しているか？ (体制づくり)	●①事業計画時に市民の参画有り ○②事業実施時に市民の参画有り ○③管理・運営に市民の参画有り ○④市民の自主的な活動と連携している ○⑤市民と共同で事業を実施 ○⑥その他 ＜その他の内容＞	計画策定時から各地区農家懇談会を開催してきた。		○①当初期待した以上 ○②当初期待したとおり ○③当初の期待以下 ＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞	○要 ○不要

		配慮の視点	取組む内容	実施した具体的な内容	環境への配慮	
環境への配慮	環境に配慮して事業を進めているか？	■①自然環境を生かしている □②生き物と共存している ■③手賀沼を意識している ■④環境負荷低減に貢献している □⑤その他 ＜その他の内容＞	・農地保全活動 ・景観作物栽培		○①想定どおり ○②想定どおりでなかった ＜想定どおりでなかった原因＞	○ 要 ○ 不要

効率性	(1)目標設定は適切か？	現況値(a)(㎡)	目標値(b)(㎡)	目標値の妥当性のチェック	達成状況 実績値(f)(㎡)	達成率(%) (f/b×100)	○①目標値達成 ○②目標値未達成 ＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞	○要 ○不要
		37,000	38,000	■①客観的なデータ・事実に基づき設定している □②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない □③現況値との差が小さい値ではない □④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である				

効率性	(2)事業費削減の工夫をしているか？	対策実施による事業費削減 事業費(c)(千円)	事業費削減額(d) (千円)	実施予定の対策	実施状況 実績値(g)(千円)	対事業費(%) (g/c)×100	○①想定事業費未満 ○②概ね想定事業費以内 ○③想定事業費超過	事業費の削減対策について ○①事前の想定どおり ○②事前の想定どおりでなかった ＜想定どおり削減できなかった原因＞	○要 ○不要
		51,052	△33,182	□①国・県助成制度活用 ■②現有体制での対応 □③維持管理費の削減策の実施 □④民間委託 □⑤ＰＦＩ等民間資本の活用 □⑥受益者負担 □⑦その他					
		事業費削減率(%) △185.69		＜削減の内容＞	＜超過理由等＞				

効率性	(3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？ (目標対費用)	目標値対事業費(e)	単位	費用単位	計算方法	達成状況 実績値(h)	対目標値(%) (h/e)×100	○①目標値以上 ○②目標値と同程度 ○③目標値以下	＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞	○要 ○不要
		74.43	㎡	10万円	●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費 ○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費					

３．事後評価

○現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

	評価コメント	改善策及び展開方向
評価		